

## 動脈硬化外来の勧め

今までに血圧が高いとか、糖尿病があるとか、コレステロールが高いと言われたことはありませんか。

その治療は、何のために行うのでしょうか？ちょっと考えてみましょう。血圧が高いと言っても、測って初めて気がついたり、糖尿といっても、初めのうちは何にも症状がありませんね。コレステロールが高いと言っても、痛くもかゆくもありません。太っていても、動くのが多少おっくうなだけで食事はおいしいですよ。みなさん、今のうち(初めのうち)は…でも、これらはみんな動脈硬化の原因です。

動脈硬化？聞き慣れた言葉ですが、なにが起こるの？  
やっぱり痛くもかゆくもないんじゃないの？

でも、ちりも積もれば山となってしまうのが動脈硬化です。

血管の壁に、余分な脂質が取り込まれていきます。脂を食べた細胞が、太っていきます。

脂がたまったところで炎症が起きます。血管の中に脂の山が盛り上がっていきます。血管は広場ではありませんので、中が狭くなっていきます。

炎症により、血管の一部(脂の表面を覆っている薄皮)が弱くもろくなり、ある日突然、はじけて詰まります。

脂が徐々に骨の成分と同じカルシウムとなり固くなっていきます。

こんなことが、首や脳の血管に起こると脳梗塞、心臓の血管(冠動脈)に起こると心筋梗塞や狭心症、腎臓の血管に起こると腎血管性高血圧や虚血性腎症(慢性腎機能障害)、足の血管に起こると下肢閉塞性動脈硬化症・下肢壊疽という病気になります。症状が出るほどに進行すると、後戻りはできません。

これらの病気が1個見つければ、2個以上持っている確率は20~40%あるといわれています。まだ、症状は出ていませんが、近い将来病気として顔を出す素地があちらこちらで進行しているわけですね。さらに、1個だけ持っている、より、2個・3個と病気を併せ持っている、入院が増えたり、はては寿命が

短くなることがわかっています。

何にも症状を感じない異常(高血圧・糖尿病・脂質異常症)が、

時間とともに→→→動脈硬化を進行させ

時間とともに→→→症状があり不快で後戻りできない病気(脳梗塞・狭心症・虚血性腎症・閉塞性動脈硬化症)となってくるのです。

動脈硬化の進行による前述の病気は、それぞれの臓器(脳・心臓・大動脈・四肢の血管)の病気ではなく、polyvascular disease(全身血管病)といい、身体を巡る血管全体の病気ととらえられるようになってきました。

さあ、初めに戻りますよ。つまり、高血圧や糖尿病・脂質異常症は、将来動脈硬化による進行した病気を出現させないために、今のうちから将来にわたって行うのです。それでは、私たちの動脈硬化は進んでいるのでしょうか？従来は、症状が出てはじめて検査をしました。症状がないと皆さん気がつかず検査もしませんでしたし、また、簡単には調べることができませんでした。残念ながらそれでは遅いということがわかりますね。

しかし、近年、医療機器の進歩と導入により、症状のでないうちでも動脈硬化の程度・進行(血管の狭窄の有無や、血管への脂のたまり具合、血管の固さなど)が調べられるようになってきました。64列CTや超音波検査・MRI検査などです。公立陶生病院・循環器科では従来から、全身の動脈硬化に目を向けた診療を行なってまいりました。このたび、これをさらに充実させて系統立てた診療ができるように『動脈硬化外来』を始めました。

すべての検査を、外来で受付ていただくことができます。

来院された当日に、可能な限りの検査を受けて、その日のうちに結果を聞くことができます。詳しくは、[病院のホームページ](#)で確認いただくか、当院紹介患者受付・医療相談窓口「動脈硬化外来受診希望」とご相談ください。症状のある人はもとより、無い人も高血圧・糖尿病・脂質異常症で治療中の方は、動脈硬化を調べ、将来の病気に進行しないようにしていきましょう。

循環器科部長 浅野 博

No.63 2010.1.1 発行 編集：教育・広報活動委員会